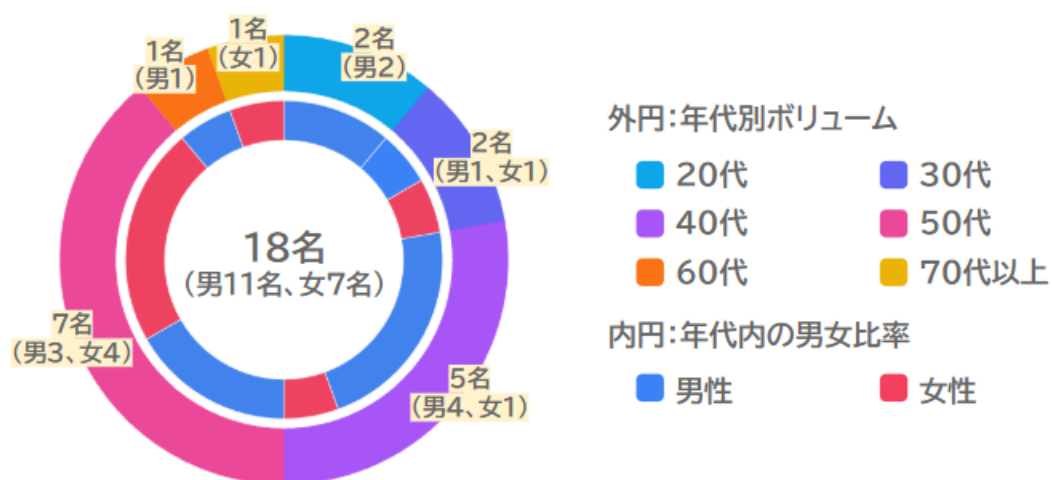


県民と知事の“ホンネ”トーク（能代市）開催概要

1 開催概要

- 日 時 令和8年8月22日（土）10:00～12:00
- 場 所 マルヒコビルディング（能代市）
- 参 加 者 18名（男11名、女7名） ※申込25名

区分	人数（男女人数）
20代	2名（男2名）
30代	2名（男1名、女1名）
40代	5名（男4名、女1名）
50代	7名（男3名、女4名）
60代	1名（男1名）
70代以上	1名（女1名）



- 実施内容
 - (1) 開会挨拶（知事）
 - (2) 第1部 テーマ：秋田の『ここ』がもったいない！
 - (3) 第2部 テーマ：『こんな』秋田になったらいい！
 - (4) 第3部 テーマ：第1・2部のテーマ及び山本地域の活性化に関すること
 - (5) 感想発表（知事）
- 実施方法
 - (1) 第1・2部：会場抽選で選ばれた3名程度と各テーマについて知事と意見交換
 - (2) 第3部：会場参加者全員を対象に意見交換（挙手制）

2 開会挨拶（知事）

本日は土曜日で好天の中、貴重な時間を使って集まっていたことに感謝する。

県で各分野で事業を展開し、各事業において各業界の声を伺っているが、知事が直接県民の声を伺う機会はそれほど多くない。そこで、今年から、広く多様な意見を伺うため、参加者を公募することとした。厳しいご意見も出るのではないかと緊張感を持っているが、県民の率直な思いを伺ってまいりたい。

秋田県総合計画のリーフレットに記載した「2040年の秋田のイメージ」には、様々な人がそれぞれの幸せや楽しみ方を実現できる秋田を創ってまいりたいという思いを込めている。本日は忌憚のない意見をよろしくお願いします。

3 第1部 テーマ：秋田の『ここ』がもったいない！

会場抽選で選ばれた3名と意見交換を実施。

○ 40代男性①

日本で6番目に広い県土を十分に生かせていない点がもったいない。

また、県内では飲食店をはじめとする多様な都市機能が秋田市に一極集中しており、地方で地熱や風力発電などの事業が進められても、地元への恩恵が感じられない。

○ 知事

広大な土地をうまく活用する方法として、大きく二つあると考えている。

一つは「産業」である。現在、話題となっているAIデータセンターは、土地、豊富な電力、そして機材を冷却するための冷涼な気候の三つの条件を求めており、秋田県はまさにその条件に合致している。そして、その前提となっているのが洋上風力発電事業である。秋田県は日本で一番洋上風力が進む地域であり、関連資材の仮置き場などを含め、広大な用地が非常に多く必要になるため、こうした土地を生かして、洋上風力発電事業にまつわる産業の誘致を進めてまいりたい。

もう一つは「居住環境」である。東京のマンションの平均価格が高騰しており、秋田であれば東京のマンションの1/3ほどの価格で、庭付き・駐車場付きの一戸建てに住むことができる。こういった「贅沢な暮らし」を県外の子育て世帯に向けて最大限アピールしている。

県内の一極集中も課題であるが、それ以上に県全体として県外へ人口が流出している現状がより深刻である。そのため、各地域に核となる拠点をしっかりと残していきたい。

その中でも、能代、八峰、藤里のエリアには、風力発電をはじめ、白神の森林資源、宇宙開発などのチャンスが多く眠っている。地元に経済的な利益がしっかりと還流する仕組みを、市町村と連携しながら県としてもしっかりバックアップしていく。

○ 40代男性②

能代市役所で中心市街地活性化を担当している。会場前の国道は交通量が多いが、商店街がシャッター街となっており、人々が立ち寄らずに通り過ぎてしまう現状がもったいない。

また、空き店舗は高齢の所有者がそのまま居住しているケースが多く、若者への貸し出しが進まない。建物同士が隣と密着して建っているため、解体や建て替えも難しい。能代市では「ほこみち（歩行者利便増進道路）制度」の活用を検討しており、歩道にお店やテラス席を広げて街に賑わいを作りたいと考えている。

○ 知事

モータリゼーション（車社会）が進む地方都市では、郊外へ人が流れる傾向がある。現代の人々の行動パターンに合わせ、街の設計も変えていく必要がある。

空き店舗については、古い建物をリノベーションし、おしゃれなコミュニティスペースとして人が集まる拠点を増やしていくことが王道の解決策となる。成功している他地域に共通しているのは、優れたデザイン力があること。そこで、県では、デザイン力やブランディングの底上げを図るため、専門家を招いたイベントや研修をスタートさせ、若いクリエイターや街づくりのプレイヤーたちのコミュニティを活性化していく。

○ 30代男性

あきた結婚支援センターへのオンライン登録の開始や婚活イベントへの補助制度など、県による結婚支援策は充実してきたが、公的な相談窓口は若い世代にとって未だ敷居が高い。一方で、民間のマッチングアプリは登録者が多く使いやすいため、県外の人とマッチングしてそのまま移住してしまう若者が多いと感じている。

秋田が好きでありながら、結婚や子育てを機に県外へ出て行ってしまう現状は非常にもったいない。

秋田の住環境や観光情報などもトータルで提案できる、県独自の「ポータルマッチングアプリ」のような仕組みを開発してはどうか。

○ 知事

マッチングアプリは民間大手が激しく競い合う市場であり、県が多額の予算を投じてそこに新規参入することは極めて難しい。一方、若い世代の約8割が「いずれは結婚したい」と希望する中、県として出会いの機会創出や結婚支援センターの登録促進について取り組んでいる。

婚活支援事業は、人の心を動かして人生の一大決断を後押しする事業であるため、顧客の心理や行動パターンを精緻に把握しなければ結果につながらない。こういった領域は行政が苦手としてきた分野である。

県としては、マーケティング手法を取り入れたイベントの開催や、全国展開する大手結婚支援企業との連携協定など、民間のノウハウを積極的に導入した事業改善を進めている。

○ 30代男性

同世代を見ていても、「出会いたいけれど、出会いがない」と悩んでいる人が多い。東京は人があふれているが、それでも出会えずに寂しい思いをしている若者がたくさんいる。このため、「秋田は出会えるチャンスがある場所だよ」という逆転の発想のキャッチコピーを作って、東京から秋田に若い人を引っ張ってくるようなことができれば面白いと考える。

○ 知事

一度県外へ出て行った方が、結婚や子育てを機にこどもを連れて帰ってきてくれるAターンが、人口減少を食い止める上で最も効果的である。そのためには戻りたいと思える魅力的なメニューをどの程度用意できるかが勝負である。東京と同じ土俵で戦っても絶対に勝てない。秋田ならではの良さをうまく響かせることができれば、移住者が増えるものと考えている。

<登壇者3名との意見交換>

○ 40代男性①

能代市にとっても婚活支援や移住の促進は大きな課題であり、その取組の一環として、バーベキューを交えた婚活イベントを企画している。しかしながら、現状は女性の参加申し込みが伸び悩んでいる状況である。

○ 知事

これまでの県による婚活イベントでも、女性の参加率の低さが課題であった。そこで、女性の心理を徹底的に分析したところ、少人数で個別の密度が濃すぎる空間よりも、大人数の中でカジュアルに参加できる方が心理的ハードルが低いという行動パターンが明らかになった。

出会いを前面に出さない企画への見直しや、ターゲット層に響くSNS発信の工夫を

行った結果、昨年度後半以降のイベントでは男女ともに満席となり、キャンセル待ちが出るほどの劇的な効果が現れた。見せ方を少し変えるだけで結果は大きく変わるため、現在もさらなる改善を進めている。

- 知事
中心市街地の活性化については、どのように捉えているか。
- 30代男性
情報発信の面で、「地元の人間が、実は地域の魅力を知らない」という現実を日頃から強く感じている。外に向けて地域の良さをアピールする前に、まずは地元に住む人々自身が地域の価値を深く認識することが重要である。
- 知事
転勤で秋田に赴任してきた大企業の方々が、地元の人間よりも地域の絶景や美味しい店を熟知しているというのはよくある話である。県内の有名な祭りやイベントの中でも、名前こそ知っていても、実際に足を運んだことがない事例が多い。
秋田を応援するためには、まずは県民自身が地域の伝統文化に実際に触れ、その魅力を再発見することが不可欠である。こうした機会を創出するため、県民の県内周遊を促すキャンペーンの準備を進めている。
- 第1部の感想（知事）
皆様から素晴らしい気づきをいただき感謝する。それぞれ異なるバックグラウンドを持ちながらも、私が目指す県政の方向性と共通する思いを感じ、背中を押された思いである。
移住促進や関係人口の創出に向けて、県は今、本格的に動き出している。これらの取組を最終的な成果へと結びつけるため、引き続き皆様の知恵と力添えをお願いしたい。

4 第2部 テーマ『こんな』秋田になったらいい！

会場抽選で選ばれた3名と意見交換を実施。

- 40代男性③
能代市に移住してきた。地域を活性化させようと様々なアイデアが出るが、いざ実行に移そうとしても主体となって動ける人材が不足している。あるいは、特定の熱心な人材に役割が集中してしまい、疲弊してしまっている現状がある。こうした担い手不足に対する解決策や工夫を伺いたい。
また、東京と能代を往復する中で、大館能代空港はドア・ツー・ドアで3時間半程度と非常に使いやすく、魅力的なインフラだと感じている。
- 知事
地方の人口減少対策として、一般的には「移住定住を頑張りましょう」と言い、それが難しければ「交流人口で経済を回しましょう」と言う。さらに最近では、その中間の概念として、移住未満・交流以上の人たちを増やそうという「関係人口」の創出が注目されており、国も「ふるさと住民登録制度」などの仕組みづくりを進めている。
私としては、秋田県から一度出てしまった秋田出身の方々に戻ってきてもらう「Aターン」の促進に本気で取り組まなければならないと考えている。
なぜこれほど移住を呼びかけるのかというと、急激にこどもが減っているからである。県の最大の課題は、やはりこの人口の将来ビジョンが見えない、先行きが全く見えないこと。しかしながら、全体の総人口は減り続けるものの、子どもや若者の人口だけでもどこかで「底を打つポイント」を作ることができれば、地域の方々も「大体これぐらいの規模の人口で推移するのだな」と将来を見通すことができる。そこを緊急的に目指していきたい。
そのため、指摘のあった「地域の活動の担い手」という文脈でいけば、必ずしも移住して住む必要はないが、定期的に地域に来て活動に関わるような関係人口の創出についても、県としてもしっかりと力を注いでいく。

また、大館能代空港については、白神山地という世界自然遺産があるにもかかわらず、日本全国や世界からあまり訪れられていない状況にあるが、実際には東京や大阪から意外と近いという強みもある。今後は、この「近い」という事実を、マーケティングアドバイザーのご意見もいただきながら、旅行キャンペーンなどで強力にアピールしてまいりたいと考えている。

同空港はビジネス利用が少し弱いという課題もあるが、今後は沿岸部における洋上風力関連の事業が拡大することにより、利用客が増加し、利便性を高めていくことができると考えている。

○ 30代女性

保育士として働いていた中、少子化を目の当たりにしてきた。過去、県外出身の同僚が「秋田には何もない」と自虐的に話していたことがもったいないと感じていた。

現在は、民間の子育て支援事業を行っているが、「子育てイベントは行政が実施する無償のものが当たり前」というイメージが強く、民間が有料で実施しようとする参加を躊躇されてしまう。こうした取組への支援や、保育士の所得向上について伺いたい。

○ 知事

人の関心は多様であり、子育て支援が最優先の人もいれば、農業や歌を歌う環境を求める人もいる。県が選ばれるためには、可能な限り多様なメニューを準備しなければならないと考えている。

また、民間の使命感や自己犠牲を前提としているような活動に対しても、今後は公的な配慮が必要であると考えます。

保育士や看護師など女性が多い産業全体の賃金水準が低いという構造的問題があり、国レベルでも問題視されている。

県としては、医療機関や保育園に経営改善を促すことで賃金を引き上げることができるよう、バックアップする形で支援してまいりたい。

○ 50代女性①

県内大学等で学生の県内就職促進に携わってきた。素晴らしい技術を有する県内企業がたくさんあるにも関わらず、学生が何も知らない現実があるほか、合同就職説明会などで企業側が学生に強みを伝えられていない。デジタルでの企業紹介は効率的だが、企業と学生を対面でつなぐ仲介役が必要であると考えます。

○ 知事

学生の心を掴まないと行動変容にはつながらない。このことはアピールが下手な秋田県の「もったいない」の一つの象徴である。

企業の思いを汲み取り学生に届ける仲介機能を備えることができれば、着実に強いマッチングができると考える。ご提案として承りたい。

<登壇者3名との意見交換>

○ 40代男性③

仕事を通じて「大学生のインターンシッププログラム」に10年ほど継続して携わっている。

最近の大学生は対面でのインターンシップ説明会にほとんど参加せず、各企業が作成した「10分程度の短い紹介動画」を視聴し、次の就職活動のステップへ進んでいる。

先ほどの話にあった、人と会社を直接対面でつなぐ「仲介役」という機能へつなぐ手前の、最初のきっかけ作りとして、現在の学生の行動パターンに合わせた「動画」を就職活動の初期プロセスに効果的に挟み込んでおくことが重要であると考えている。

○ 知事

学生が隙間時間にスマホ等で見られる効果的な短い動画の活用は、マンパワーの限界を補う意味でも非常に有効的である。

ただし、社長が原稿を棒読みするような手作り感のあるものではなく、学生の心を揺

さぶるような訴求力の高い動画でなくてはならない。県内の中小企業が質の高い動画を制作するための支援が必要である。

○ 30代女性

SNS上には「保育はブラックだ」といったネガティブな情報ばかりがあふれていてもったいない。若者が県内に残る傾向は強まっているため、そこに希望を見出しつつ、保育現場自体も環境や意識を変えていく必要がある。

○ 知事

SNSは悪い情報や不満ばかりが広まる傾向があるが、効果的な方法を用いれば、あまりお金をかけずに魅力を伝えることができる有力なツールである。「秋田県には多様で素晴らしい仕事がある」という正しい情報をあの手この手で発信し、知ってもらうことが重要であり、県としても力を入れて取り組んでいく。

5 第3部

第1・2部のテーマ及び山本地域振興局管内の活性化について、参加者全員を対象に意見交換を実施。（7名と意見交換）

○ 50代男性①

子育て支援は各市町で手厚い施策が行われているが、目に見える人口増加に結びついていない。

能代・山本地域には火力発電所があり、現在進めている洋上風力発電もあるのだから、住民への直接的な還元策として、例えば「電気料金的大幅な優遇措置」などがあれば、定住や移住を促す強力なフックになるのではないかな。

○ 知事

洋上風力発電事業は国家プロジェクトであり、大規模な事業体が開発を進めている。現状、洋上風力による発電コストは従来の火力発電と比べても非常に高いため、電気料金を値下げして地元に還元することは極めて困難である。

しかしながら、売電収入の一部を地域活性化の財源として地元に還元する仕組みがあり、県産品の販路拡大や教育支援に活用されている。

加えて、何より重要なことは「質の高い雇用の創出」である。洋上風力やその後のメンテナンスなど、高度な技術や専門スキルを必要とし、高い所得が得られる産業を地元に育ててまいりたい。これにより、これまで県外へ流出していた優秀な人材が「秋田に残る、戻る」選択ができるよう、人口減少対策につなげてまいりたい。

○ 40代女性

養蜂業を営んでいる。白神山地がもたらす高品質なアカシアの蜂蜜を求めて県外から多くの移動養蜂業者が一時的に流入してきているが、採蜜だけを行って他地域へ移動してしまうため、地元への経済的な還元や地域での流通が少ない点がもったいない。

また、一次産業に女性が新規参入する際の周囲への理解や、活躍しやすい環境づくりには、まだいくつかの課題があると感じている。

県として、養蜂業の振興や一次産業における女性活躍の推進について、今後どのような方向性を目指しているのか伺いたい。

○ 知事

白神ブランドの蜂蜜は非常に魅力的な地域資源である。それにもかかわらず、地元に必要な恩恵や利益が行き届かない現状は非常にもったいない。

農林水産業については様々な支援制度を用意しているが、今後、現場の詳しいお話を聞かせていただき、どのような支援ができるか検討していきたい。

○ 60代男性

五能線沿いを能代から八峰、青森方面へドライブした際、秋田県側に比べて青森県側の道路が非常に走りやすく整備されていることに驚いた。観光客やバイカーを呼び込む

ためにも、こうしたインフラの維持管理は重要である。

また、来年には夜行列車「ルナ・アズール」の運行が開始される。東能代駅にも停車するよう働きかけてほしい。高級客室を利用する購買力の高い層をターゲットに、白神山地区をはじめとする周辺観光地をバス等で巡り、地元にお金を落としてもらうツアーパッケージの検討をお願いしたい。

○ 知事

道路整備に関しては、観光や交流人口の拡大に資する道路整備の必要性を感じている。

また、列車については、「列車を止めた後にお客様に何を提供できるか」が鍵となる。東能代という場所で降りていただくためには、それ相応の魅力的なおもてなしメニューが必要である。具体的なツアーパッケージづくりに当たっては、地元の旅行事業者や地域の皆様も含めた検討が必要であるが、県としても、側面からしっかりとサポートしていく。

○ 50代女性②

五能線から見える美しい景色に深く感動し、移住してきた。現在はボランティアとして景観保全の活動をしているが、線路沿いの草木や雑草が伸び放題で、せっかくの美しい海や景色が遮られているのが非常にもったいない。

こうした美しい景観を維持・保全するボランティア活動に対し、県としての支援をお願いしたい。

○ 知事

草刈りや伐採は土地の所有者の権利関係が問題になる。県内一律の整備は難しいが、具体的な撮影スポットが特定できれば対応を検討することができる。

○ 40代男性④

地域病院の医者やスタッフの高齢化が進んでおり、地域医療の存続に限界を感じている。

高齢者を支えるため、周辺地域で「訪問看護ステーション」の設立を検討しており、立ち上げへの支援をお願いしたい。

○ 知事

地域医療の存続と訪問看護は非常に重要なテーマである。ちょうど本日午後から、能代市内で山本地域全体の医療構想をテーマにしたフォーラムが開催される。県健康福祉部の職員や地元の医療関係者が一堂に会する場であるため、ご参加いただきたい。

○ 50代男性②

県外の大学へ進学した学生が秋田に戻ってこない現状に強い問題意識を持っている。

県の奨学金返還支援制度は非常に充実しているが、対象が「県内企業（県内事業所）への就職」に限定されている。多様な働き方が広がる中、「県内に住み納税しているが、在籍企業は県外」というリモートワーカーにも対象を柔軟に拡大できないか。

○ 知事

いただいたご意見を踏まえ、多様化する働き方に合わせた支援のあり方について、行政としての実務的な課題等を踏まえ、どのようなケースが対象として対応可能か、研究していく。

○ 20代男性

クマの出没ニュースを見ると不安になり、県内外の人が観光を躊躇してしまうことが考えられる。主要な観光スポットにおけるクマ対策の現状と、情報発信やPRについて、知事の考えを伺いたい。

○ 知事

去年・一昨年に有害個体の適切な駆除を進めたことで、今年は個体数が減少傾向にある。このほか、農地や温泉施設等への電気柵設置や自動ドアロック機能の改修補助、刈

り払いによる見通しの確保など、市町村と連携して安全性を高める地道な環境整備を行っている。さらに、情報共有の強化として「クマダスアプリ」の活用や教育現場での啓発活動も進めている。

しかしながら、難しいのは情報発信やPRである。行政として一律に「安全宣言」を出すことは難しく、大々的に発信するほどかえって不安を呼び起こすリスクもある。そのため、観光キャンペーンの前面には県の純粋な魅力を発信する一方、不安を持つ方が自ら調べた際には万全な対策状況をいつでも確認できるよう、情報を整理した上で公開しておく、という「二段構え」の広報戦略を展開している。

6 感想（知事）

本日は様々な視点から意見をいただき、私にとっても非常に勉強になった。想定していなかった新しい気づきを得られる大変有意義な時間であった。

本日は多くの移住者の方がおられることに驚いた。やはり「外の目線」があるからこそ、「秋田はもっといける」という前向きな発想や気づきにつながるのだと改めて実感している。本日はいただいた新しい視点や提案をしっかりと生かし、これまでの前例にとらわれて諦めるのではなく、やり方次第でいくらかでも結果を出せるという強い気持ちで、これからの県政運営に臨んでいく。皆様には、今後とも県政へのご指導とご協力をよろしくお願いする。